

## PCAN-RS-232

### RS-232 - CAN のプログラマブル コンバータ

PCAN-RS-232は、RS-232とCAN間の通信を行うプログラマブルモジュールです。データトラフィックの変換は、NXP LPC211シリーズマイクロコントローラを介して行われます。

PCAN-RS-232の動作は、特定のアプリケーション向けに自由にプログラムすることが可能です。ファームウェアは、CおよびC++用のGNUコンパイラが付属する開発パッケージを使用して作成され、その後CAN経由でモジュールに転送されます。さまざまなプログラミング例により、独自のソリューションの実装が容易になります。

PCAN-RS-232には、CANからRS-232へ、またはその逆方向へ転送するデモ用ファームウェアが付属しています。これにより、データ転送やシリアル制御コマンドによるハードウェアを設定することができます。対応するソースコードは、提供範囲に例として含まれています。



### 仕様

- NXP LPC211シリーズ マイクロコントローラ (16/32ビット ARM CPU)
- 32 kバイト EEPROM
- High-speed CAN チャンネル (ISO 11898-2)  
ビットレート: 最大 1 Mbit/s 最大 40 kbit/s
- CAN 2.0 A/B 準拠
- CAN - RS-232間のデータ転送はビットレート最大 115,200 bit/s
- デジタル Input x1 / Output x1 (ローアクティブ)
- ステータス表示のための2色LED
- 10極 端子台(Phoenixタイプ) で接続
- 電源電圧 8 ~ 30 V
- 動作温度: -40°C ~ +85°C
- CANインターフェイス経由でファームウェアの書き換え

### 品名・仕様

PCAN-RS-232

### 型番

IPEH-002100

### 納品内容

- プラスティック・ケースのPCAN-RS-232、嵌合コネクタ(Phoenix Contact MC 1,5/10-ST-3,5 - 1840447)
- Windows® 開発用ソフトウェア  
(GCC ARM Embedded付 toolchain、フラッシュ・プログラム)
- プログラム例付きライブラリ
- マニュアル (PDFファイル)

### 必要事項

ファームウェアの書き換えにはPEAKのCANインターフェイスが必要です